



〈 社会人の窓 13 〉

新入会のご挨拶

佐藤 大作



淀川愛好会のみなさま、はじめまして。私は 2019 年 4 月に摂南大学理工学部都市環境工学科に着任しました。着任後すぐに澤井先生のお誘いを受けて淀川愛好会へと参加させていただき、2020 年 4 月より会計担当の役割を仰せつかりました。正直なところ、澤井先生にお声がけいただくまで本会の存在を知らず、入会してから非常に活発な活動をされているのだと驚きました。このたびは「新入り」に文章を書く機会を頂戴し、大変ありがたく思っています。

私の専門は海岸工学です。海岸工学といっても様々ですが、特にツバル国やマーシャル諸島共和国といった南太平洋の小さな島嶼国での気候変動による海面上昇の影響評価や海岸侵食の問題に 10 数年取り組んできました。いろいろなメディアなどで「海面上昇によって国が沈んでなくなる」といったことを目にする機会もあるかと思いますが、こうした国をご存じの方も多いのではないかと思います。現地の問題はその一言で片づけられないのが現状です。首都の島への人口集中問題、汚水処理等のインフラの問題、経済的な持続性の問題、淡水資源確保の問題などなど、現在抱えている問題が多い中での、気候変動による海面上昇の問題として考える必要があります。それぞれの問題が複雑に関係しているなかで、現地の人が望むより良い解決策を模索しなければいけないというところが大変難しいところです。

ところで、気候変動に対する対策は大きく緩和策（気候変動自体を抑制するための対策）と適応策（すでに起こっている、これから起こると予測される影響に対する対策）に分けられます。海岸の分野で考えなければいけないのは適応策になるわけですが、現在は適応策の方針として「防護」、「順応」、「撤退」の 3 つが考えられています。例えば、海面上昇で浸水が生じてしまう場所があったときに、「防護」はその場所を堤防や護岸で守りそこに住む。「順応」は数年に一度の浸水などある程度は許容してその場所に住む。「撤退」はその場所から影響がない他の場所に移って住む。こうした考え方は、東日本大震災で津波被害を受けた東北地方太平洋沿岸の市町村の復興にも見てとれます。海岸堤防を嵩上げて防護することを選択した場所もあるれば、高台へ移転すること（撤退）を選択した場所もあります。河川氾濫に対しても同様の考え方ができると思いますが、都市部を流れる川の氾濫対策としては撤退という選択肢はとりえないなど、いろいろと制約がありそうだなと感じています。どういう対策をとるのか、選択するのは実際にその場所に住んでいる人が決めることですが、どの選択肢が自分たちにとって最も良いのかを判断するために必要な情報を提供することも工学の研究者として重要なことだと思っています。

（摂南大学理工学部都市環境工学科准教授）

イベント案内

○淀川愛好会 春のイベント「大川クリーン活動&川で学び・つながる」

4 月 25 日（日）10:00～14:30 大阪ふれあいの水辺

○第 3 回琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 兼 第 23 回近畿水環境交流会

5 月 15 日（土）12:30～17:00 大阪工業大学梅田キャンパス（OIT 梅田タワー）2 階セミナー室 203

イベント報告

淀川愛好会 総会

2021年2月27日(土) 11時から12時に、摂南大学都市環境工学科会議室で淀川愛好会の総会が開催されました。会員の方々と学生を含めた約10人の参加がありました。総会では伊藤議会議長の挨拶から始まり、今後の淀川愛好会の方針や第3回琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウムなどの事業計画について話し合われました。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により多くのイベントが中止となってしまいましたが、2021年度は例年通りにイベントが開催できることを祈っています。(N・K)



総会の様子

第5回近畿河川フォーラム 兼 第23回淀川討論会

2021年2月27日(土) 14時から17時に摂南大学にて、近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会が主催する第5回近畿河川フォーラム兼第23回淀川討論会が開催されました。京都大学防災研究所教授の矢守克也氏に水害のソフト対策について、避難スイッチといった住民による独自の避難判断基準やセカンドベスト、「空振り」改め「素振り」という考え方をご紹介いただきました。これまではハード対策について検討する機会が多かったため、学ぶことの



講演中の矢守克也先生



閉会後の集合写真

多い講演となりました。新型コロナウイルス対策として、会場(35名)とオンライン(19名)の両方での開催となり、試行錯誤しながらとなりましたが、無事に開催することができうれしく思います。(N・K)

淀川討論会の会場ステージにかわいい水車がお目見え

淀川愛好会相談役 澤井健二

2021年2月27日(土)、第5回近畿河川フォーラム兼第23回淀川討論会の会場(摂南大学寝屋川キャンパス12号館2階1232号教室)のステージに、直径1mほどのかわいい水車が登場し、会場の雰囲気をやわらげつつ、盛り上げました。

この水車は、以前摂南大学機械工学科の学生の手で作られたものらしく、しばらく旧2号館北西角付近に置かれていたのを淀川愛好会がもらい受け、一時、京都市伏見区の保育園とそのそばにある日野川はぐくみワンドを活動拠点とする日野川水辺の会と共同で保管していましたが、2014年に水辺に学ぶネットワークが発足したのを機に、その活動拠点である京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーに保管していました。

宇治川オープンラボラトリーでは、6年前から巨椋池流域模型ビオトープが整備されていますが、このたび、その一角に水車があると似つかわしいということで、この水車が再登板することになりました。しかし、製作されてから長年経過していることで、老朽化が著しく、特に木製の軸の部分が腐食していて、滑りが悪く、強い水流がなければ動かなくなっていました。そこで、軸をアルミ管に取り換え、ボールベアリングを挿入したところ、比較的弱い流れでも回転できるようになり、いっそのこと、ミニポンプによる循環流で回転させ、架台や水槽(トロ舟)とともに、可搬式の水車としてはどうかということになりました。

まだ、十分な補修ができておらず、未完成の状態ですが、とりあえず、皆様の前でお披露目をしようということで、急遽会場に搬入したものです。

宇治川オープンラボラトリーから摂南大学12号館玄関までは、バンタイプの軽自動車のトランクルームに入れて運搬



し、玄関から3階までは10Lの水入りタンク2個も含めて、すべての部品をトロ舟の中に入れて台車に載せてエレベータで移動しました。

会場では、ものの10分もあれば組み立てはできましたが、回転中にベアリングが外れて補修が必要となるなど、若干のトラブルはありましたが、何とか最後まで動かすことができ、皆様に大いに関心を持っていただけたのではないかと思います。今のところ、ただ水車が回転するのを眺めているだけで、その回転を何に利用するかについては、皆様と共に、これから考えていきたいと思っています。よいアイデアがあれば、お教え下さい。お待ちしております。

また、ご要望があれば、いつでもどこへでも貸し出しや出前が可能ですので、お声かけ下さい。

今後のイベント案内

淀川愛好会 春のイベント「大川クリーン活動&川で学び・つながる」

日時：2021年4月25日（日）10:00～14:30（雨天決行）

場所：大阪ふれあいの水辺（源八橋周辺）

内容：9:30 受付開始 帝国ホテル前（大川右岸）

10:00～12:00 清掃活動&水辺の生き物観察

12:00 昼食

13:00 E ボート乗船

14:30 解散

共催：淀川愛好会、おお川水辺クラブ

参加費：無料

申込先：淀川愛好会事務局（締め切り4月19日）

※内容は変更になる可能性があります。



第3回琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 兼 第23回近畿水環境交流会

～流域治水とグリーンインフラ～

日時：2021年5月15日（土）12:30～17:00

場所：大阪工業大学梅田キャンパス（OIT 梅田タワー）2階セミナー室 202、203、204

内容：12:30 ポスターセッション

13:30 講演

治水：白波瀬卓哉氏

（国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所長）

環境：鎌田磨人氏

（徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授）

16:00 総合討論

17:00 閉会

主催：琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム実行委員会

共催：摂南大学

協力：学校法人常翔学園

参加費：無料

申込先：淀川愛好会事務局（締め切り5月8日）



大学生活4年間を振り返って

森 風輝

私は2017年に摂南大学に入学しました。大学生生活の4年間はあっという間に過ぎていきましたが、大学生生活で最も充実していたのは、巨椋池遊水地構想についての研究に携わらせていただいた4年生です。研究室は環境に興味があり、環境系のゼミである生態環境学研究室(石田ゼミ)を選びました。巨椋池地域は過去に堤防の決壊で大きな被害を受けており、水害危険度の高い地域になっています。

そんな中で、私の研究では巨椋池干拓地を遊水地にする研究を解析ソフト等を使って検証してきました。研究を進めるたびに壁にぶつかり、なかなか前に進めないことが多々ありました。しかし、先生方に意見をいただき研究を進めることができました。まだまだこれからの研究だと思いますが、今後、巨椋池遊水地が実現し、活躍することを願っています。

私は、2021年4月から兵庫県庁に入庁する予定です。研究で学んだことを活かして地元の兵庫県に恩返ししたいと考えています。

(摂南大学理工学部都市環境学科4年生・就職先：兵庫県庁)

新刊書籍紹介



2月27日の近畿河川フォーラムでご講演をいただいた、京都大学防災研究所教授矢守克也先生が、「防災心理学入門」という本を出版されました。大変読みやすい構成で、かつ有益な本ですので、ご紹介させていただきます。

タイトル：「防災心理学入門」豪雨・地震・津波に備える

著者：矢守克也 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2090円 発行日：2021年3月25日

構成：第1章 豪雨災害 第2章 地震災害 第3章 津波災害 第4章 災害心理
各章はGrande(4ページ)3本、Tall(2ページ)8本、Short(1ページ)5本のエッセイと、2ページのコラム「新語・流行語で振り返る1年」からなっています。

エッセイのもとになった原稿は、概ね2017年から20年までの4年間に書かれており、その間に発生した災害事例が多数登場します。

姉妹編既刊書：「天地每人ー防災・減災えっせい辞典」、ナカニシヤ出版、2017

会員募集・寄稿・会費納入のお願い

本会では、淀川に興味・関心のある方の「ご入会」をお待ちしております。ご入会を希望される方は淀川愛好会事務局へ随時ご連絡下さい。「社会人の窓」への投稿も随時募集しています。

会員の方は、今年度の年会費3000円(学生1500円)を納入していただけるようお願いいたします。

会費は事務局にお届けくださるか、下記の口座にお振込みください。

銀行振込口座：りそな銀行 寝屋川支店 普通預金 口座番号：2230030 口座名義 淀川愛好会

編集後記

東日本大震災は、今年で10年が経過しました。その後、毎年のように大きな災害が起こっております。

コロナ禍でイベントが少ない中、第5回近畿河川フォーラム兼第23回淀川討論会が開催され、オンラインで講演いただいた矢守克也先生の新刊書籍紹介という企画を、ヨリッニュース93号に採用したことは喜ばしいことであります。(澤井健二相談役の提案：笑う)

現在のコロナ禍においても、自然災害が起こると、人間がコントロールするような考え方のダム建設の話が、妖怪のように現れマスコミは賑わっております。川と人間関係において「川はだれのもの？」とみなみらんぼうは言う！大災害が頻繁に起こる原因は、地球温暖化による気候変動の問題として、部分的全体として真剣に考える必要があると思います。

1年間、編集員として頑張っていたいただいた南保和輝氏と森風輝氏には心から感謝します。

編集長 岡崎善久(岡崎善久建築設計事務所)

淀川愛好会事務局：〒572-8508 寝屋川市池田中町17-8 摂南大学理工学部都市環境工学科 石田研究室内

TEL/FAX：072-839-9125

HP：<http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric>

E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp